

「授業構想力評価スタンダード（生活科）」

観点 \ 段階	段階 1	段階 2	段階 3
A．授業構想力			
1．学習者の把握			
1) 学習者の実態把握	子ども一般の発達段階，担当クラスの特徴，学習に取り組む姿勢を把握している。	個々の学習者の興味・関心・意欲を把握している。	学習者のこれまでの生活・学習経験をふまえ，現在の個々の学習者の興味・関心・意欲，並びに思考の流れを把握している。
2) 学習への構え・ルールづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くときと活動するときのけじめをはっきりとし，指示を的確に出す。 ・音楽や合図，時間を示すなどして，活動の終わりをはっきりと子どもに示す。 ・道具の使い方やきまりを示す。 ・後片付けの方法を示す。 	教師や友だちの話をしっかりと聞くというルールを示し，指示がなくてもできるように身に付けさせる。	子どもたちが試行錯誤しながら考えたルールが，学習活動の中に生きるようにする。
2．目標の分類と設定	授業の目標を，【生活への関心・意欲・態度】【活動や体験についての思考・表現】【身近な環境や自分についての気付き】の各観点からとらえて設定している。	単元の目標，授業の目標を【生活への関心・意欲・態度】【活動や体験についての思考・表現】【身近な環境や自分についての気付き】の各観点からとらえて設定している。	<ul style="list-style-type: none"> ・1，2年生2か年の生活科の学習計画から年間学習計画をたて，単元の目標を設定し，子どもの実態，自らの実践と照らし合わせながら，授業の目標を適切に更新している。 ・就学前の教育および3年生以降の教育へのつながりも考えて，目標を設定している。
3．授業構成			
1) 教育内容の構成	授業での具体的な活動や体験を【学校と生活】【家庭と生活】【地域と生活】【公共物や公共施設の利用】【季節の変化と生活】【自然や物を使った遊び】【動植物の飼育・栽培】【自分の成長】の観点から整理し，教育内容としている。	子どもたちの実態，関心・意欲をふまえた上で，具体的な活動や体験を8つの領域の観点から整理し，教育内容としている。	<ul style="list-style-type: none"> ・活動だけにとどまらず，子どもが自己への気付きをし，知的な気付きを深めることができるように，教育内容を構成している。 ・学級，学年での活動が，学校全体，家庭，地域に広がっていくように，教育内容を構成している。 ・就学前の教育および3年生以降の教育へのつながりも考えて，教育内容を構成している。
2) 教材や対象の選択・構成	設定した目標，活動内容に即した適切な教材や対象を，調べ準備している。	設定した目標，活動内容に即した教材や対象に，実際にかかわったり調べたりして，子どもの活動や体験が広がり，深まるような，教材や対象の選択，構成をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な教材研究をしたうえで，子どもの思考，行動を予想し，地域や学校の特徴を生かして教材や対象の選択，構成をしている。 ・教材や対象に，子どもが主体的にかかわれるように，授業を構成している。

観点	段階	段階 1	段階 2	段階 3
3) 授業過程の組織		<ul style="list-style-type: none"> ・「導入」「展開」「振り返り」の流れがある授業過程を組織している。 ・目標が達成できるように、活動を支援する発問や指示を考え、振り返りのためのワークシート等を作成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの気付きが生まれることを意識して、授業過程を組織している。 ・目標が達成できるように、活動の時間配分を考えた適切な授業過程を構築できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが活動に主体的に取り組み、気付きが深まることを意識して、授業過程を組織している。 ・活動中の子どものつぶやきやカードから、思考の流れをつかみ、授業過程を組織している。
4) 学習方法の選択・組織		具体的な活動や体験を組み込んだ学習方法を選択し組織している。	授業の目標に適した、多様な活動や体験ができるような学習方法を選択し組織している。	子どもの思いが生きる活動に適する学習方法を、子どもが選択し構成していけるよう支援している。
5) 学習形態の選択・構成		授業の目標、活動内容と方法等を吟味し、それらの学習にふさわしい一斉学習、グループ学習、個別学習等の学習形態を適切に選択し構成している。	授業の目標、学習内容や方法、学習状況の実態にあわせて、子どもの学習意欲を喚起しながら、学習形態を選択し構成している。	授業の目標、学習内容や方法、学習状況の実態、多様な授業の展開にあわせて、子どもが主体的に活動できるよう、臨機応変に適切に学習形態を選択し構成している。
4. 単元計画(授業計画)				
1) 単元(授業)計画の作成		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を達成できるように授業計画を作成する。 ・活動内容、支援の過程、時間配分の関係性を明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の目標を達成できるように、単元計画を作成する。 ・子どもの実態をふまえ、活動内容、支援の過程、配慮事項、時間の関係性を明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に活動し目標を達成できるように、単元計画を作成する。 ・年間活動計画、本単元の前後の単元をふまえたうえで、単元計画を作成する。 ・他科等との関連を考え、関連する他教科等の指導内容を生活科の単元計画の中に位置付ける。
2) 学習指導案の作成		本時の目標、授業の展開、教材や対象、評価など、学習指導案の一般的な形式項目を理解し、授業計画を記述している。	授業の展開の意図が読み取れるように、自分のことばで、計画を記述している。	<ul style="list-style-type: none"> ・予想される子どもの思考の流れや行動、指導上の配慮事項についても適切に記載している。 ・本時の授業を、単元全体の中で捉え、前の時間から、後の時間への流れが見えるような指導案を作成する。
3) 学習評価計画の作成		【生活への関心・意欲・態度】 【活動や体験についての思考・表現】 【身近な環境や自分についての気付き】の観点ごとに、評価活動を計画している。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の見通しをふまえ、授業目標、授業構成、授業展開の実際との一貫性のある具体的な評価項目と、評価活動・方法を計画し、明示している。 ・様々な評価方法の中から、適切な方法(発言、会話、カード、ワークシート、作品等)を選んで、評価計画の中に、明示している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年・学期・単元の見通しをふまえて、評価活動を計画している。 ・子どもの学習活動に即して、診断的評価、形成的評価、総括的評価、子どもの自己評価、他者評価等、評価活動を適切に選択し、計画している。 ・具体的な評価方法や評価基準を組織的に設定している。